

# rongorongongo

茨城キリスト教大学  
文化交流学科

茨城キリスト教大学文学部文化交流学科 〒319-1295 茨城県日立市大みか町6-11-1 TEL 0294-52-3215 FAX 0294-52-3493

## 沖繩の真の姿とは？

### 沖繩カルチャーフェスティバル

昨年11月23日、24日に、  
沖繩大学の学生を招き、「沖繩カルチャーフェスティバル」を行いました。

このイベントでは、沖繩大学三味線部による芸能や、沖繩食文化体験コーナーなど、多くの企画がありました。  
当日の写真と共に、実行委員・小松令奈さんの感想を掲載します。

#### 米軍機のため

#### 日本の飛行機は低空飛行

「沖繩」と聞いて何をイメージしますか？ 青い海、ハイビスカス：最初に浮かぶのはそういったイメージだと思います。果たしてそれだけが、沖繩の本当の姿なのでしょう。

沖繩の那覇空港に飛行機が降り立つとき、高度がぐっと落ちます。すぐ下には沖繩ならではの綺麗な海が一望できます。しかし、これは旅行客への単なるサービスではありません。それより上空には米軍の軍用機が安全に飛行できるよう確保された範囲であり、日本の飛行機はその下の極めて低い高度でしか飛べないのです。これは、今も沖繩に残る戦争の傷跡の一つだと思っています。

#### 国内留学で

#### かけがえのない仲間が

私は去年1年間、沖繩大学（以下、沖大）へ国内留学をしました。とても

米軍基地：様々な顔を見せる沖繩に、私は心を惹かれずにはいられません。そして何より大

も気軽な気持ちで臨んだ留学だっただけに、今まで知らなかった沖繩の姿に驚くばかりでした。美しい海、今も受け継がれる伝統芸能、多数のガマ、

きかったのは、沖大での大学生活です。三線部に入部し、そこでかけがえのない仲間達と出会うことができました。芸能の練習を通して仲間との絆を深められたことが、私の一番の思い出です。



## アジアの魅力、堪能。

### アジアンバザール／カフェ

昨年11月2日、3日に開催された学園祭に、毎年恒例になった「アジアンバザール&カフェ」が出店され、大きな賑わいを見せた。

アジアンバザール（アジアンバザン）では、毎年学生達が直接アジア地域から買い付けてきた雑貨や洋服を販売する。

アジアンカフェでは、定番のベトナムコーヒーやベトナム麺フォーなど様々なアジア食を販売した。10号館1階には、手作り感溢れるアジアな空間に多くの人が訪れ、アジアの魅力を楽しんだ。

今回は、そのメンバーから感想をいただいた。

09年01月号目次

1面 沖繩大学交流会

2面 アジアンバザール

3面 アジアンバザール

講演会「民具から見た現代社会」報告

◆ 志賀先生海外研修へ

◆ 細谷先生インタビュー

◆ 韓国留学記

◆ 沖繩大学交流会

◆ ボランティア・サポート基金報告

◆ ひたち学シンポジウム

#### お客さんと

#### アジアの話

坂本亜希子

私は今年と二年前にアジアンカフェに参加しました。二年前と違ってたのはフォーと言う麺類を出していたことでした。

二年前はベトナムコー

ヒーとジュース、お菓子にスイートポテトやパウンドケーキを主に売っていたのでお客さんもお茶飲みに寄ってくれた感じでした。

今年メニューにベトナムフォー、その他の麺類も増え、主食を求めて

来てくれたお客さんも増えたと思います。また、お客さんにコーヒーやフォーを出すまでの時間、少しでも来てよかったと思っていただけのように私達が行ったカンボジアやタイ、ベトナムの写真をアルバムに入れて各テーブルに置いていました。お客さんから『これがアンコールワット？』『どのくらい行ったの？』『どのくらいのお金で行けるの？』『楽しそうだね』など、アジアに関する話も少しはありますが出来ました。自分の好きなことに興味を持っていただけることほど嬉しいことはないです。

【2面に続く】



フォー

す。

あとは、毎年文化祭でアジアンバザールをやっているのですが、外にお客さん呼びに行くときなど看板を持っていると『去年もここ行つたのよ。今年も行きたいんだけど今年はどこでやってるの?』と声をかけていた。だくことが増え、徐々にアジアンバザールの存在が広まっていつてゐるんだと実感し、嬉しいです。

来年は今年の反省点良かった点をいかして満足出来るカフェをひらきたいと思っています。

「文化交流学科3年」

今年はいよいよ買い付けから参加

橋本麻美

今年で2回目の参加となるアジアンバザールですが、去年と大きく違った点は、今年はいよいよから参加したということです。去年は値札付けの時点から、先輩たちに「どの国のどの市場で、どんな人から買って来たのか」という事を教えても

らいながらの作業で、何もかもが手探りの状態でした。当然、本番でお客様から商品について聞かれても答えられないこともしばしばで、何度菌がゆい思いをしたか分かりません。

しかし今年は、ディスプレイする商品は自分たちが買って来た商品を含めてどれも愛着のあるも



のばかり。それらが目の前で売れていくというのは、なんとも言えない、想像以上の喜びがありました。

また、今年は売り場の掲示を担当し、私達がボランティアとして過ごしたカンボジアの学校での生活の様子などを写真たっぷりに紹介したり、

カンボジアの悲しい歴史やゴミ山、スラム街など、実際に自分たちが見てきたカンボジアの負の部分も模造紙にまとめたりました。これは掲示を任せられた時から、カンボジアの闇の部分も知って欲しい、という思いがありました。作成したものなので、当日出来上がったそれらを見てお客様が足を止めて下さったり、実際に興味を持っていくつかの質問をして頂いたりした時は胸が熱くなりました。

アジアンの良い点は日本とアジア諸国のどちらの顔も見られること。これからも私達の活動が両国の橋渡しに少しでも役に立てば嬉しいです。

「文化交流学科 3年」

スライドショーも新登場

越沙央里

去年に引き続き、今年もアジアンバザールにカフェスタップとして参加しました。

去年は途中参加だったので、ある程度用意され

たなかでの活動でしたが、今年は夏の買い出しから参加し、去年の経験から準備をしていきました。そのかいあって今年もたくさんの方にきていただくことができました。

初のスライドショーや写真などで去年よりもアジア全体でより東南アジアを身近に感じてもらえたと思います。みなさんが知らなかった文化や歴史を知っていただけたらうれしいです。

今年来れなかったという人は是非来年お越しください♪♪きくと楽しんでもらえると思います。

「文化交流科3年」

買い出しは思った以上に大変だったが

鴨志田純沙

今回、初めてアジアンバザールに参加しました。自分達が実際に見てきたアジアを伝えられる機会なのでとても楽しみにしていました。アジアンバザールでは、直接現

地(ベトナム、タイ、カンボジアなど)で買い付けたものを販売します。私はタイ、カンボジアでの買い出しを手伝いました。

しかし、買い出しは思った以上に大変でした。厳しい暑さの中、次第に増え重さを増している荷物を持ち歩いているときは本当にハードでした。だけど、お洒落なアジアン風に完成したお店を見て、とても感激しました。

今回、私はCafeの方を担当しました。Cafeでは、ベトナムコーヒーの美味しい入れ方などをみんなで練習しました。また、スイートポテト作りにも挑戦しました。ハート型に作ったスイートポテトは好評でとても嬉しかったです。みんなで一丸となつて一つのものを作り上げたときの感動、そしてそれを伝えられる喜び。そういった貴重な体験ができて本当に良かったです。

「現代英語学科2年」

大学の文化祭のレベルを越えた売り上げ

吉田優

大学の文化祭に参加するのは初めてだったが、アジアンバザールの仕事は何もかもが桁外れに大規模だった。

準備では先輩方のハイセンスなインテリアコーディネートと先生方の確かなアドバイスをもとに、壁に布をたらしたり竹の葉をつるしたりと、教室はすっかりとアジアンなスペースに早変わりした。

当日はどのお客様も実際に商品に触れたり、使ってみたりと興味津々な様子で、売り手としてもやりがいがあった。「こ

れはタイで買い付けてきたものです」「職人さんの手づくりですよ」などと声をかけると「すごいねー」とか「すてきだねー」と商品褒めてもらえるようにうれしかった。

お客様の世代も幅広く、子供たちは珍しいおもちゃに目を輝かせ、年配の方は肌触りのよいストールを鏡の前で身につけ、10〜20代位だとおしゃれなアクセサリーを楽しそうに選んでいた。



大学の文化祭のレベルを越えた売り上げも接客のプロとしての先輩の姿を見られたのも良い経験になった。「看護学科1年」

# 講演会感想

## 〜もの大切さ〜



昨年の11月26日、染谷先生担当の地球市民論で、世界遺産にもなっている奈良の元興寺文化財研究所主任研究員の角南聡一郎さんすなみ しょういちろうを招き、「日本の民具・アジアの民具から見た現代社会」についての講演がありました。学生の感想を、ご紹介します。

できるのだとおっしゃった。例えば、お店の前に立っているタヌキは何故いるのか。それは、ツケなしでお客さんに支払いをして欲しいという店側の望みを、作り手がハンドメイドで表現したものらしい。タヌキは「金の前」だということだ。「カネ」と「キン」をかけている。しかし、現代の私たちはその隠された意味に気づかない。「新しいものを次から次へ大量生産し古いものが捨て去られる時代に私たちはいるからだ」と先生はいう。

また、機械でものを作ることにより、ハンドメイドで作られる「民具」が跡形もなく消え去る可能性がある。文化財という考え方は、民具のようなもの記憶を残すためにあるのだという。そこで、民具収集を行っているわけだ。

大量生産によって作りの民具が姿を消しているばかりでなく、私たちの身近にある「もの」も形を変えようとしているという。アジアからの文化が影響している例として招き猫があげられた。今もなお、町に存在する招き猫。この中に、「億」という漢字を中国語の簡体字で表記しているものがあるという。他には、携帯電話用のストラップとして販売しているものの中に、「中国結び」という特殊な織り方で紐の部分をつ結っているものもあるのだという。

そのように、私たちの身近なところで少しずつ他国の文化が民具や私たちの身近な「もの」に溶け込んできているのだ。講演を聴く前と聴いた後では、身近にある「もの」の見方が違って見えるのを実感した。

また、現代社会に存在する身近かな「もの」も「民具」とは言い難いが、今の時代を知る上で、後世の人々に必要となるのではないだろうか。

「もの」の価値観が分からない私たちだからこそ、「もの」の大切さが重要なかもしれない。  
(長谷川勇)

講演会を聴く前に、題名だけで私は困惑していた。題目の内容は『日本の民具とアジアの民具からみた現代社会』という内容で「どうしたら現代社会を読み解くことができるのだろうか」と考えていたからだ。

「民具」といえば納屋の奥底に眠っている畑道具の鍬などしか連想出来なかつたからである。また当然のことながら、家が農家でない私は民具に親しみがなく、また手にしたこともあまりないため自分の考えでは、それ以上に「民具」を思い

つかなくかつた。しかし、講師の角南先生は私たちに分かりやすく、民具とはなにか、またご自身のお仕事である文化財とはどういったものかについて教えてくださった。

その際のお話のなされる方も、親しみを込めて講演なさっていたので、最後まで話に引き付けられていた。民具とは、ハンドメイドのものを指すのだという。

また、民具からその時代の歴史や作り手の気持ちを読み解くことも

今年4月から、一年間の海外研修の機会を得て、中国、香港に滞在することになりました。8月までは広東省広州市の中山大学人類学系、9月からは香港中文大学崇基学院文化及宗教研究系に籍を置きます。どちらの大学でも、大学院修士課程の講義科目を担当する予定です。

また滞在中には、これまで10年近く取り組んできた広東の道教と民間信仰に関する人類学的研究の補足調査を行う予定です。こちらのほうは、い

私は中国文化史やアジア文化論などの授業を担当していますが、テレビやインターネットの偏った中国報道に接するたびに、現地調査を踏まえた客観的な中国研究の成果を伝えていくことの重要性を痛感

# 志賀市子先生 海外研修で中国・香港へ



ずれ著書の形にしたいと考えています。さらに、これからの研究の種まきもしていくつもりです。香港中文大学に所属する9月からは、香港を拠点として、東南アジア地域に伝播した華人宗教の調査と資料収集を中心に行います。一昨年及び去年の年末には、その手始めとして、タイやベトナムの華人宗教の調査に行きました。文化交流学科で交流計画を進めているカンボジアにも興味があります。

もちろん、これらの研究の成果は、研修を終えた後、大学の講義や実習などに積極的に役立てていきたいと思っています。私は中国文化史やアジア文化論などの授業を担当していますが、テレビやインターネットの偏った中国報道に接するたびに、現地調査を踏まえた客観的な中国研究の成果を伝えていくことの重要性を感じています。もっとも、一年間日本を留守にして中国・香港に滞在するにあたって、心配の種がまったくないわけではない家族（夫と猫1匹）はちゃんと暮らしているだろうかとか、2010年あたりには鳥インフルエンザやばいかも、とか。

現地調査を踏まえた客観的な中国研究の成果を伝えていくことの重要性を痛感

中国や香港に関心がある人は、ぜひ（自力で）遊びに来てください。歓迎します。（志賀 市子）

# 細谷先生ロングインタビュー 後篇

前篇に引き続きヨーロッパの文化はもちろん、今度はアジアの文化も交えて色々な角度から読み頂けると思います。細谷先生の学生時代の体験もたっぷりとお伝えします。

トイレはコミュニケーション  
「トイレはコミュニケーションがないですよ」っていう話をしたの。割と今は戸話をついでいるみたいだけ

文化交流科の入学記念行事で泊まりに行った時、中国語の任先生と「中国のトイレには戸がないです」って話をして。割と今は戸話をついでいるみたいだけ

そんな話をしたら、任先生に「トイレはコミュニケーションのよ」って言われて。「えっ？本当に？」って。それはこういうこと。通路を挟んで両側に個室があるトイレで戸が無くて、人が壁の方を向いて並んでいたら、話をするには不自然でしょ？通路の方を向いて用を足すのね。座りながら井戸端会議みたいに話をするんだって。志賀先生ですら「えっ、そうなんですか？」って。

で変だなんて思うことも、何らかの背景があるかもしれないから、まずはとらずに合わせよう。郷に入っては郷に従え。それでもってある程度仲良くなったら、どうしてそうするのか聞いてみる。その人がしてること、その文化が変だなんて思っているだけじゃ、そこから発展しないじゃない。

## 昔話の研究

◆昔話の研究とはどのようなことをされているのですか

この話を以前のロングインタビューに書きましたけれど、これも、何で私はこのことをやっているんでしょうか。ドイツ語を続けることにはしたんだけど、ドイツにどっぷり浸かるのはちょっと嫌かな、というか駄目かなって思ったから、例えばドイツと日本、東洋と西洋のような比較をしようと思っただけです。

文化によって展開が変わる昔話

私の母校には文学の先生がお二人いらしたんだけど、一人は昔話とか子



顔をしながら用を足すのは「私はあなたに何も秘密はありませんよ」って

そんなわけで、学生の皆さん一人ひとりに心がけて欲しいのは、外国

## 心理学と文化

## から読む昔話

# 旅行番組レポーターの

## アルバイト

供の文学を専門にしてい

らっしゃる先生だった

の。学生時代にそういう

関係の本も授業で結構読

んでいたから、これなら

まあ、学生にも受け入れ

てもらえるのかなってい

う感じで始めたんですよ

ね。最初はユング心理学

的な解釈とかを読んでい

たんですけど、そのうち

に心理学はとも面白い

けれど、なんかディテ

ールのところに色んな解釈

を付けちゃたりというの

は、ちよつと違うんじゃ

ないかな、と。

例えば、仮になんか

の話に鳩が出てきたと

して、鳩はこういう意

味ですってという解釈が

されて、「うーんなるほ

す。

たくさんさんの国に

色々な昔話があつ

て、同じタイプに属

している話でも、多分、

文化によつてストーリー

展開が変わつていつたり

するのね。そういうとこ

ろがおもしろいし、今は、

心理学も踏まえて文化と

昔話の関係について研究

したいかなと思つてま

す。昔はグリムとかドイ

ツの昔話しか見てなかつ

たけど、この頃はアジア

とかにも視野を広げて、

文化圏で何か見えてくる

ことはないかなと考えて

います。

◆大学生活ではどんなことを

されてましたか。

アルバイトの話はあま

ターというところで、私の

知り合いがその番組のプ

ロデューサーを知つてい

たから、「じゃあ、行つ

ておいでよ」ということ

で、結構何度も行きまし

たね。本当にいろんな意

味で面白かつたよ。

どこの国に行つたかと

いうと、まずイギリス料

理食べたのはそのとき

ね。英語喋れないのに

行つちやつたから、大変

だった。「大丈夫でしょ

う。英語ぐらいできるで

しょう」つて言うディレ

クターに対して、私は最

初から「できません！」つ

て言つていたのに。それ

で、一緒に行つたディレ

クターの、「英語がこの

程度でドイツ語が本当に

とつても役にたつていま

すね。「連れて行つて頂

いてありがとうございま

す」という感じです。当

時はそんなにメルヘンに

興味がなかつたから、今

行けばもつといいレポー

トができるけど、もうお

呼びがわからないしね。

スイスでは、「アルプス

の少女ハイジ」の村にも

連れて行つてもらいまし

た。お話の舞台のイメー

ジとしてはグリーンデル

ヴァルトが本当はモデル

らしいのよ。でも、お話

の中に地名が出てくるマ

イエンフェルトという村

に、「ハイジの小屋」が

あつて、小屋の後ろに三

本、もみの木が立つてい

るの。そこへ行くと本当

に住んでいるんだよね、

おじさんとおばさんと大

きな犬が。子供はいない

けど、乾草のベッドも

ちゃんとあつて、家の中

も見せてもらったよ。

このアルバイトをして

からはやらせでしょ」と

思つてしまうことが、と

ても増えたの。まあディ

レクターも3人別々な人

と行つただけど、やら

せがとつても好きなディ

レクターもいるの。旅を

しながら現地の人に知り

合つて友好を深めるつて

番組だったけど、やつぱ

りある程度つじつまを付

けるためには、全くの偶

然に頼つていては誰にも

知り合えないので、知り

合う人は現地のコーディネ

ーターの人が物色して

くれたりもするわけです

よ。

だけど、その範囲内で、

なるべく真実を撮ろうと

するディレクターの人も

いたし。真実を伝える方

の人は最終的にTBSの

「世界遺産」のプロデュー

サーになりましたよ。や

らせはやつぱり、駄目で

すね。少なくとも私は恥

ずかしくてとてもできな

かつた。素人だから、あ

たかも何か、ぴたつとは

まるように何かやらなく

と思つて珍しくちゃんと

動いて。学会つてこうい

うところなんだと思つ

て、面白かつたよ。発表

ちゃんけないというの

は、大変でした。レポー

ターは海外旅行に行けて

バイト代が貰えちゃうか

ら、ホイホイと喜んで「行

かせてください」という

感じで、「行きましたけど、

アルバイトはあんまりし

なかつたですね。

でも、あと変わつてい

るのは産婦人科学会のバ

イトをした経験かな。

産婦人科、国際産婦人

科学会のバイトがあつ

て、それはよかつたです。

当時貰つた日当が1万円

だったんだもの。すごい

でしょう。これはやろう

と思つて珍しくちゃんと

動いて。学会つてこうい

うところなんだと思つ

て、面白かつたよ。発表



「こんなもの国辱ものだ」とかいながら、内心忸怩たる思いで部屋から出てきたり。その時に知り合った人がゆくゆく、

テレビのレポーターのアルバイトを紹介してくれただんですね。

フットワークの軽い学生時代だからこそ出来ること

本当に何がどうなるか分かりませんね。だからみんなも大学生の時はいろいろやったほうがいいと思いますよ。私はそれほどやらなかったほうですけど、それでも大学生の頃を思い返してみれば、クリスチャンの友達と後樂園での大伝道会とかにも行きました。

すごく有名な伝道師がアメリカからやってきてお説教をしてくれるから、細谷さんも行くから、と言われて、ひよこひよこついで行ったりしましたが、なかなかでしたよ。最後に、「では、皆さん。皆さんの信仰を明らかにしましょう。神への信仰を誓う方は席をお立ちください」と言われちゃって、まわりの

クリスチャンの皆さんはずらーっと立っちゃって、「私はここで、立つわけにはいかないぞ」と思っただけで、細谷さんは「いいのよ、細谷さんは座っていても」と言われちゃって。(笑)

あとは展覧会とか、銀座の画廊にも行きました。新聞に紹介記事が出たから、行ってみようとか。学生の時が一番フットワークが軽いきだから、ちよつとでも興味のあることや「面白そうかな」と思ったら、それに飛び込んで行っちゃうこともいいんじゃないかなって思います。

◆今日は楽しいお話をありがとうございました。  
いや、長々お聞かせしてしまいました。



### 韓国長期交換留学を

考えている皆さんへ

文化交流学科 4年

太田 千恵美

私は07年度、長期交換留学生として韓国の明知大学校に留学しました。留学の目的は、語学の向上と韓国人の生活習慣、韓国人が日本について、日韓の関係についてのどのようかを知りたいと思ったからです。

韓国へ出発したのは07年2月末、それから約10ヶ月間韓国で生活しました。まず学校の様子ですが、明知大学校は2月末から学校が始まり、1学期の間は大学校付属の語学堂というところで外国人だ



けの韓国語授業(内容は書き取り、読み取り、会話、文法、作文の5分野です)。そして2学期は、韓国人学生と同じ授業や韓国語の授業を履修します。

そして次に韓国での生活ですが、私は大学校の寮に入ることでもできたのですが、何でも自分でやってみたいということ

で下宿を選びました。「下宿」と言っても日本ではあまり聞かないし、一体どのようなところなのかと思う人がいるかも知れないので、簡単に。下宿とは、韓国人大学生の他、留学生などが多く滞在し、部屋は1人部屋または2人部屋。多くの部屋にはベッドや机、テレビなど基本的なものは備え付けられていて、物件によってバス・トイレは各フロア共同だったり、個人の部屋についていたりする宿泊施設のことです。食事は朝・夕

2食がついているところもあれば、白ご飯だけが常備されおかずは各自で用意して食べるシSTEMのところなど、物件

によって異なり、家賃は月30〜50万ウォン程度です。ちなみに私が住んでいたのは、1人部屋で食事35万ウォン(日本円で3万5千円弱)でした。(同じ下宿でも部屋に寮があるか、バス・トイレが個人の部屋についているかなどによって値段が異なります。)

下宿生活をしながら何かもが初めてで、韓国人との文化の違いを感じることも多々あったし、大変なときもありました。しかし、今ではそれも良い経験だったと思えるし、何でも自分でやってみたいという当初の目標はしっかりと達成されたと思います。

ちなみに大学校の寮も、明知大学校の寮は出来たばかりで綺麗だし、なんとと言っても大学の敷地内にあり、希望すれば韓国人学生とのルームシェアもできるので魅力的だと思えます。

長期交換留学を通して、私は語学だけでなく様々なことを学び、得ました。そして留学してみてもっと韓国を好きに

なったり、韓国人の愛国心の強さ、人に対する温かさには本当に感じ、心し、見習わなければいけないと感じました。私はこの温かさがあったからこそ、10ヶ月という日々を頑張れたのだと思うし、本当に周りにいる人たちに支えられ、助けられました。

これから韓国への長期交換留学を考えている皆さん。初めは不安で、すぐには決断できないかも知れませんが、少しでも行ってみようという気持ちがあるのなら挑戦してみてください。必ず素敵な出会いがあり、忘れられない経験になるはずです。あのとときこうしていればよかったです。あのとときこうしてよかった。そう思うように…。





「1面から続く」  
茨城に戻ってきた後、「私が見た沖繩を茨城に発信したい！」と感じました。そして平成20年11月23日(日)、24日(月)の2日間、「沖繩カルチャーフェスティバル」を開催することができました。  
沖大の学生を茨城に招き、23日は大甕駅前前夜祭、24日は本学学園講堂で沖繩文化交流会を行いました。初めて行うイベントということで幾多の苦難がありました。沖大側とも何度も衝突し、



沖繩大学三味線部と本学学生

投げ出したくなる時もありましたが、話し合いを繰り返して、多くの協力の下で無事イベントを終えることができました。  
去年沖繩で出会った仲間とこのような形で再会できたこと、そしてこれを通じてまた多くの出会いを持ってたことを嬉しく思っています。ご来場い

「文化交流学科3年  
小松 令奈

2日間にわたって行われたこのイベントに、来てくださった沖繩大学学生に、簡単に大学の特徴などを紹介して頂きます。



## 沖繩大学、人との絆

沖繩大学は3号館までしかない、小さな学校です。毎日すれ違い様に見える顔ぶれに親近感が湧いて、ふとしたタイミングから仲間になったり、小さい沖大でこそ見えて来るものは、たくさんです。人の絆だったり、熱い思いだったり：  
学生はもちろん、沖大には、自分が思いを持ってぶつければ返してくれる教員が多く、そんな熱い教員と出合える場所、というのも自慢です。

沖大でもう一つ、欠かせないのが先日茨城に行かせてもらった三線部です。三線部は、茨城組を含め多くの交換留学生を抱えて来ました。毎年多くの出会いや別れがあり、正に一期一会日々を芸能を通して成長しながら触れ合う熱い部活です。



「沖繩大学 法経学科4年  
鳴海知世

## アジアンボランティア サポート基金 IC-ANN

ボランティア・サポート基金よりご報告です。

12月8日〜19日の二週間

間の間にわたり、生協食

堂、学生ラウンジにてア

ジアンボランティア・サ

ポート基金の募金キャン

ペーンを行いました。現

時点で寄せられた募金は

約十四万円。ご協力あり

がとうございました。

この募金活動は、05年

にスマトラ沖巨大地震に

よる津波被害地復興支援

に出かける卒業生をサ

ポートすることをきつ

けに始まり、今回で満3

年となりました。毎回、

文化交流学科現代英語学

科を初め多くの学生がこ

の活動に参加していま

す。

この募金は毎年夏季

休業中にカンボジアにて

行われる「日本語・英語

教育ボランティア」な

ど、アジア地域を中心と

したボランティア活動を

サポートする目的で使わ

れ、また学園祭で行うア



学生ラウンジで

出し資金として貸し出されたりと、とても役に立っています。

今年の学園祭

でもアジアンバ

ザールは本基金

が買出し資金として使わ

れ、大変素晴らしいもの

になりました。こちらの

活動も、すっかり学園祭

の恒例行事となっていま

す。

このような活動に少し

でも関心のある方は気軽

にご連絡下さい。参加を

お待ちしております。

(藤田悟 文化交流学科教員

連絡先

icann@hotmail.co.jp

# シンポジウム 戦後日立の復興を辿る



左から 岩間、志田、島崎、川村、木村の各氏と司会の森謙二教授

茨城キリスト教大学公開シンポジウムとして、日鉦記念館館長の木村信浩氏、常陽銀行監査役・元日立製作所日立工場副工場長の川村俊彦氏、日立市郷土博物館学芸員の島崎和夫氏、日立市郷土博物館館長・茨城キリスト教大学名誉教授の志田諄一氏を招き、「第二回 ひたち学への招待」が開かれました。講演を聴いた学生の感想を紹介します。

## 日立の行く末を 考えていくための 一歩となった

瀬谷直緒子  
(文化交流学科 1年)

12月13日(土)茨城キリスト教大学3号館にて、4人のパネリストの方による「第二回ひたち学への招待」が開催され、70歳の方をはじめ男性を中心に多くの人が集まりました。

テーマのひとつに日立製作所がある。日立製作所は、遠く茨城へ優秀な人材を集めるのは非常に困難だったため、農漁村の次男、三男など地方の優秀な人材を集め、専門高度の教育の機会を与え、日立の「ものづくり」の中核を担う人材を育てた。

また社員・家族および地域住民の医療体制整備のために、東大病院の全面バックアップのもと、日立総合病院が建設された。

そのほかにも、輸送のために日立港を開港したり、外国人来客や要人対応の洋式ホテルやゴルフ場などの娯楽施設を建設した。

現在茨城キリスト教大学のキャンパスであるこの土地は、戦時中従業員の食糧用のサツマイモ畑であった。

講義は日立製作所だけでなく、世界一大きな煙突を作り、地域住民に配慮した取り組みを半世紀以上続けた日立鉦山の歴史、震災によって焼失した学校の再建、市営住宅の建設をいち早く実践した戦後日立の復興の流れなど、現在につながる日立の歩みを、そしてこれからの日立の行く末を考

えていくための一歩となった。

昭和のはじめに日立を訪れた歌人、前田夕暮はこんな歌を残している。

「日立日立 語感甚だよろしかも 吾は新しきいのちをおぼゆ」

日の立つ姿を、確かに見ていた人がいた。

## 編集後記

日々、寒くなっている今日この頃。無事、今月号も完成し、あとは学年末のテストを残すのみとなりました。あっといふ間の一年。いよいよ、来年は3年生になります。大学生活を有意義に過ごせるよう、色々なことに挑戦していきたいと思えます。〔笹沼綾乃〕

今月号を通し一番感じたのは、「今の時点での仕事ができ、どの仕事もまだできないか」ということです。できることは進んでやり、できないことはフォロワーに入ってもらおう。できることは得意気にならず、フォロワーに入ってもらって、いる間もただ見とれず、そこから何かを学びとる。次号もそれらを踏まえじっくりと仕事に取り組みみたいですね。〔長谷川勇〕

冬休み中に遺跡発掘調査の看板を見つけ、数日後に地面を掘っている人がいました。遺跡って意外な場所に埋まっていることもあるんだなと驚きました。そして2008年は過ぎて今年

も始まり、いろんな瞬間を大切に楽しく過ごしていきたいです。〔松本千恵〕

早いもので、私がこのロンゴロンゴに参加してこの号で3号目になります。ですが、未だに戸惑ってしまふようなことが多々あり、自分の未熟さに凹んでしまふこともあります。09年は本格的な就職活動も待っている、自分を強く持つて毎日を有意義にしたいと思えます。〔鈴木英二〕

自分用のデジタルカメラを買ったので気軽に写真を撮るようになりました。ロンゴの取材はもちろん、風景やイベントなどですぐにメモリーがいっぱいになり、日常を過ごしていても思い出が増えていくのを感じています。友人のとびきりの笑顔など、シャッターチャンスをとらえたときは爽快。写真撮影ならではの

楽しみです。〔佐々木美和〕

●編集部のメールアドレス  
rongorongo\_hensyu@univ-bunka.rongorongo.jp  
owner@yahoo.co.jp

●本紙WEB版はバックナンバーを含めて大学のHPでご利用いただけます。  
<http://www.icc.ac.jp/univ/bunka/rongorongo/rongorongo1.htm>

いろいろ忙しくなってしまうと、rongorongoはほとんど学生にお任せですが、最終段階でNGを出して混乱させたりして、迷惑なガキ大将をやっているかもしれないと、ちょっと反省しています。でも、「クオリティを下げなければいけないでしょー!」「段取りがなっていない!」「こんな文章恥ずかしくて載せられません」などとやっつけまいます。

それでもがんばっている学生はエライと思います。〔藤田悟〕

ロンゴロンゴとは南太平洋ポリネシアのイースター島で昔作られていた「物を言う板」です。この板には文字のよなものが書いてありました。この文字はまだ解読されていないそうですが、これは島の人々に歴史や情報を伝える板でした。